

# 長和町プロジェクト

181665 稲葉まほろ

タイトル

「ながわまち民譚」

コンセプト

「知らないから知りたいへ」

長和町をよく知らない人に、一步踏み込んで知って貰えるようにする。

知って貰う事で記憶に残るようにする。そのきっかけとして人から人へ民話が今後も伝えられるようにする。

ターゲット

- ・長和町をよく知らない人

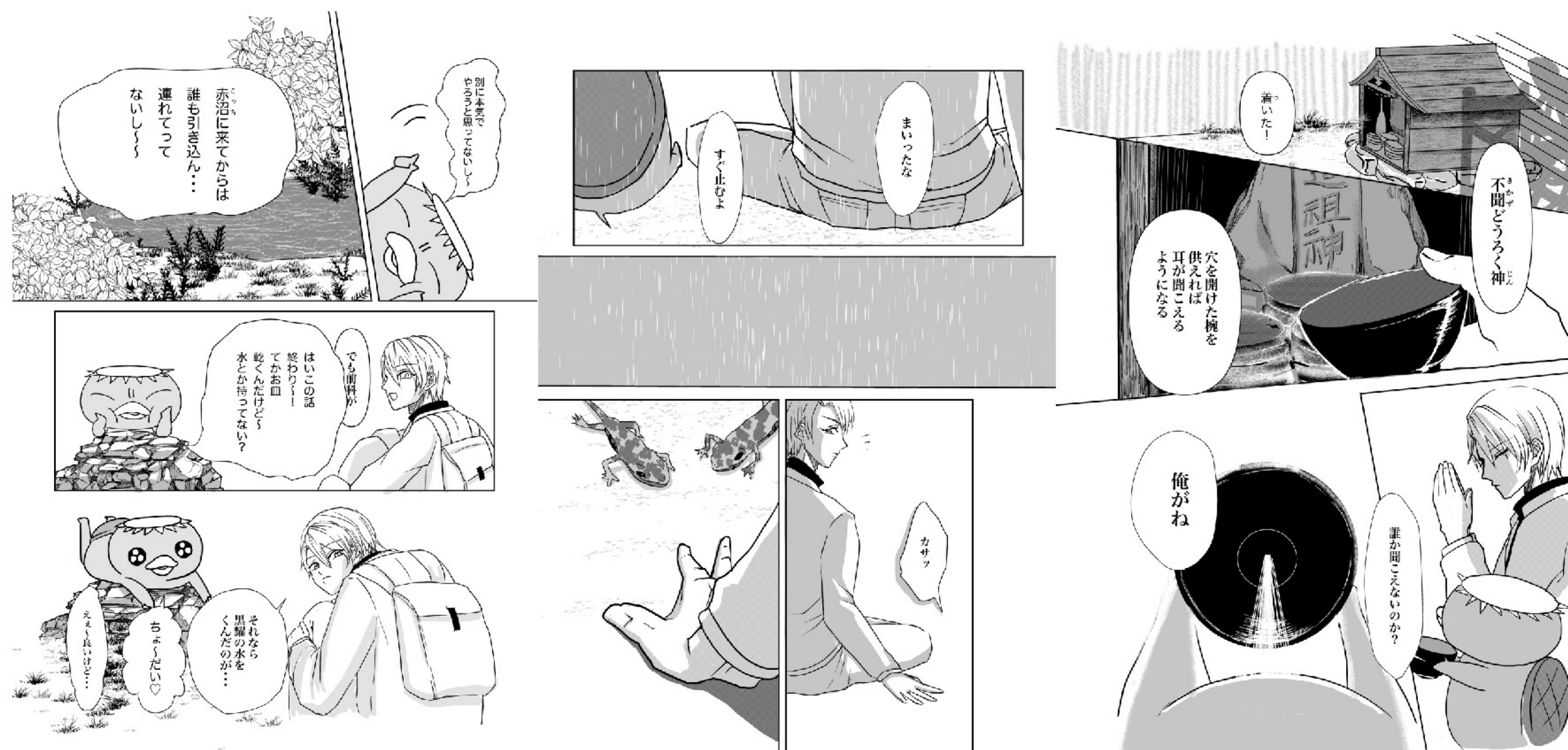


マンガの主人公となる人間も長和町を深くは知らない設定にして、長和町を詳しく知らない読み手と同じような立場から始まる。

## 扱った民話

- ・かぎ引石と河童の池 →他の地域の伝承にも出てくるカッパが一番馴染み深いから案内役に
- ・お女郎池 →伝わる民話の中でも歴史的背景から一番信憑性の高いもの
- ・不聞どうろく神 →長和町の民話を聞いてほしいので
- ・扉峠の猿とかすみ網 →猿は皆知っている動物だし、この民話の猿なら登場させる上でカッパと関われるから
- ・山犬に送られる →何もなければ無害だけれど、民話への畏怖のようなものを感じられるように

その他、長和町にあるスポット（黒耀の水、美しの塔）も登場。



最初は長和町を詳しくは知らない主人公が、同じく長和町を詳しくは知らない読み手のアバターの役割として登場するけれど、カッパと会った場面から、土地勘がないだけで長和町の民話に関しては知っているという状態にして、読み手より「少し知っている」、読み手より一歩先に進んでいる存在として先導していくイメージ。

民話を主とした裏のコンセプトは、「民話はまだ行きている」。

狙い

- ・ 長和町の民話を厳密には説明せずに、元となった民話がどういうものなのか知りたいと思って貰う。
- ・ 民話をきっかけに長和町をより知ってもらい、何度も来て貰えるように覚えて貰う。

